

弥生時代の石器と土器

柏木町 柏木遺跡出土 弥生時代中期(紀元前2～前1世紀)



弥生時代の石器

約2400年ほど前に伝わった稲作、米づくりはまたたくまに西日本にひろがりました。鉄は少なくて貴重なものでしたから、農具や武器には木器や石器が広く使われ、^{いしさじ}石匙、^{そうき}搔器、^{せきすい}石錐、^{たたきいし}敲石など縄文時代以来の道具も使われています。稲の穂摘みに用いたと考えられる^{いしぼうちよう}石包丁や木材の伐採^{ばっさい}に使った^{ふとがたはまぐりばせきふ}大型蛤刃石斧は少しでも鉄

の切れ味に近づけるため刃先をよく磨いた磨製石器です。また、縄文時代にくらべるとこの時代の^{せきぞく}石鏃(石の矢じり)は大きく、戦いの道具、武器として使われるようになったと考えられています。



弥生時代中期の土器

^{やよいどき}弥生土器には貯蔵用の壺、煮炊きに使^{かめ}う甕、食物を盛る^{たかつき}高杯、鉢などの種類があり、近畿地方の弥生時代中期の壺の表面には^{くしがき}櫛描文様がついています。柏木遺跡では周囲に溝をめぐらした弥生時代の^{ほうけいしゆうこうぼ}墓、方形周溝墓が見つかりました。



方形周溝墓 東から